

アジア・コミュニケーション

1970年代の日本による東南アジアイメージ外交

井原伸浩 名古屋大学大学院
国際言語文化研究科附属
グローバルメディア研究センター

かつて「エコノミック・アニマル」などと揶揄さ本授業では、日本の国際的イメージを高めるため、政府がいかなる国内・外交政策を展開してきたかを検討します。ここで扱う事例は、1970年代の東南アジア政策です。れた日本人のイメージが、東南アジアで改善していった要因を考察します。

はじめに

■ なぜイメージ政策が重要か？

イメージの政治的利点

- 自国の政策が国際的に受け入れられ易くなる
- ソフト・パワー：その源泉

イメージの経済的利点

- 国家ブランディング：日本への高い評価
- ヒト、モノ、カネ、情報の動きに関し有利に

■ なぜ1970年代の東南アジアが重要か？

反日感情が顕著に表出

- タイの日貨排斥運動(1972)
- 田中角栄の東南アジア歴訪(1974)

その後、状況は劇的に改善

- 日本-ASEAN関係の深化
- 日本のイメージ外交が成功した例

1970年代東南アジアの日本イメージ

■ なぜ反日感情は高まったのか？

- 「経済支配」の懸念
- 現地での日本人によるふるまいへの批判
- 軍事大国化の懸念？

■ 日本にできることは限られていた

- 情報発信力不足
- 現地の国内事情
- 国際情勢の影響：冷戦

政府が主体となったとり組み

■ 政府に何ができるか 他国政府の貢献

- 現地国政府による反日の抑制
- 日本の経済的貢献を積極的には自国民に説明しない政府も

■ 発信の内容 軍事大国化の懸念？

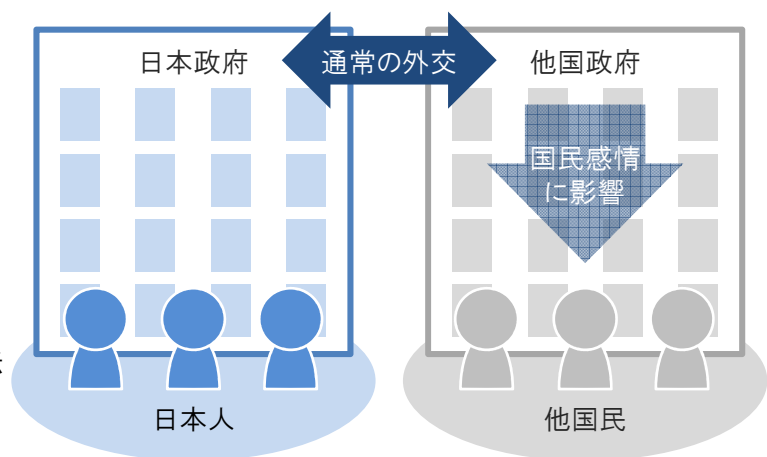
- 平和憲法
 - 非核三原則
 - 徴兵制不採用
 - 福田ドクトリン
- の国際的宣伝

「アジアにおける既存のバランス」維持

- 米国の軍事的コミットメント維持
- インドシナ諸国との協調
- 福田ドクトリン：対等な立場でASEAN諸国の連帯や強靱性強化の自主的努力に協力

援助のあり方

- 政府主導の援助へ：援助条件の緩和
- コミュニケーションチャンネル：ニーズの把握
- 「桁違い」な援助
- ASEAN文化基金：ASEAN諸国間の文化交流促進



■ 日本政府による広報
誰が、なぜ、何を？

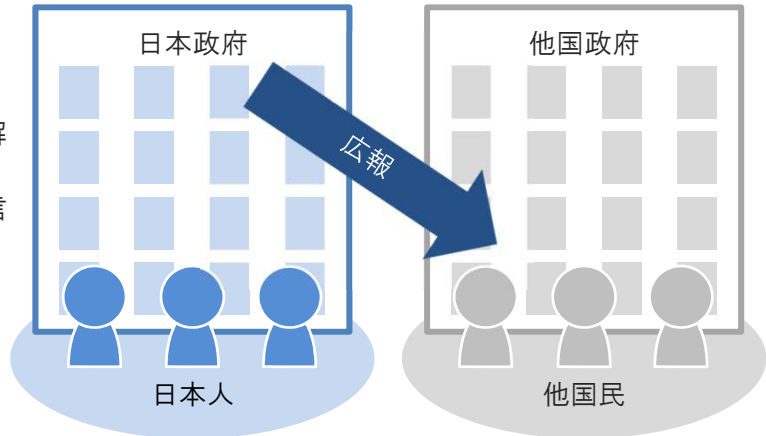
- アジア局と情報文化局
- 認識不足・不正確な認識・誤解に基づく反日感情の是正
- 日本の貢献・情報・文化の発信

直接広報

- 短編テレビクリップの作成・放送
- 主要紙に広告記事を掲載
- 各種定期・不定期刊行物
- 広報映画の作成

間接広報

- 間接広報：そのねらい
- シンポジウム／講演会の開催
- 日本の援助プロジェクトの視察
- テレビ工作
- 政策広報資料の作成・配布
- 現地人の日本への招待拡充



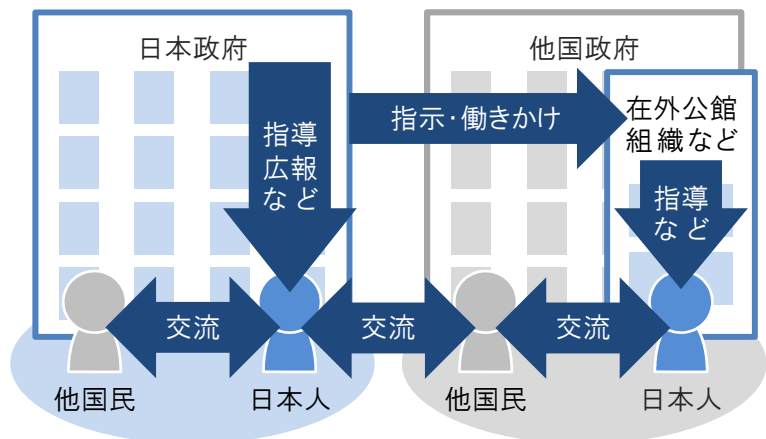
邦人を通じたとり組み

■ 経済的諸問題
貿易問題

- 貿易不均衡・依存・摩擦
- 域内諸国の輸出振興に資する公正な商態度

投資のあり方

- 現地企業への打撃緩和
- 現地多数派に有益な投資
- 目立たない努力
- 現地人の待遇を改善



■ 文化的諸問題
現地に対する無理解

- 観光客のマナー：無礼講、集団行動
- 「旅の恥はかき捨て」
- ごうまんな態度
- 文化的あつれき
- 現地人と邦人との交流の不足

文化交流

- 相互理解深める／経済偏重関係の是正

邦人への指導体制：民間の利用

- 関係省庁間の協議連絡体制を整備
 - 政府と業界の協議連絡体制の整備
→現地で活動する企業に対する指導
 - 日本のマスコミとの関係強化
→その報道が現地マスメディアに反映されがち
 - 日本人向け広報の出版物
 - 講演会
 - テレビによる広報
- } 間接広報により重点置く

おわりに

■ 今日のイメージ外交

- 中国と韓国での日本イメージ
- 歴史問題

■ 長期的視野にたった政策評価の必要性

- 信頼構築は時間がかかる
- 政策を実行しながら不信を緩和する考え方